

平成28年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価
報告書

台東区教育委員会

目 次

1	目的及び根拠	1
2	点検及び評価	2
3	教育施策評価の方法	3
4	教育施策評価の結果	4
	< 学びのキャンパス台東アクションプラン >	
	・ かけがえのない命を大切にした豊かな心づくりの推進	5
	・ 伝統と共に生きる豊かな感性の醸成	9
	< 生涯学習推進プラン >	
	・ 生涯学習推進システムを確立する	13
	・ 地域力を高める	17
5	学識経験者による意見	21
6	教育委員会の活動状況	32
7	参考資料	35
	・ 「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」 の位置づけ	
	・ 台東区教育大綱	
	・ 教育目標	

1 目的及び根拠

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月からすべての教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

台東区教育委員会では、教育行政をより効果的、効率的に推進するため、平成20年度から主要な施策や事務事業の取り組み状況について点検及び評価を毎年実施しており、今般平成28年度の点検及び評価の実施結果を報告書にまとめました。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価

(1) 実施方法

平成28年度の「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」については、教育委員会が実施した教育施策評価を活用し、教育振興のための施策に関する基本的な計画として位置づけられている「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」を対象として実施しました。

(2) 点検及び評価の対象

「学びのキャンパス台東アクションプラン」

4つの【施策目標】の中から「施策目標1 これからの社会を生き抜く力を育成する」、「施策目標2 新たな価値を創造する人材を養成する」の2つを選択し、さらに各施策目標中の【施策の方向】を1つずつ選択して、平成27年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の方向：かけがえのない命を大切にした豊かな心づくりの推進」

「施策の方向：伝統と共に生きる豊かな感性の醸成」

「台東区生涯学習推進プラン」

6つの【施策の目標】の中から2つを選択し、平成27年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の目標：生涯学習推進システムを確立する」

「施策の目標：地域力を高める」

(3) 学識経験を有する者の知見の活用

点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、様々なご意見、ご助言をいただきました。

学識経験者

氏名	所属等
尾木 和英	東京女子体育大学名誉教授
前田 烈	大智学園高等学校顧問
有村 久春	東京聖栄大学教授

3 教育施策評価の方法

(1) 教育施策評価シート

台東区教育委員会が実施している施策を定期的に客観的な基準で採点し、評価するために、教育施策評価シートを用いています。それぞれの施策について、実績の推移、費用対効果、組織・人員の3つの視点と総合評価から課題等を抽出し、今後の方向性をまとめました。

(2) 教育施策評価シートの構成

施策名

今年度の点検及び評価の対象となった【施策の方向】及び【施策の目標】を記載しています。

現状と課題

【施策の方向】及び【施策の目標】における現状と課題について、平成27年度末時点で記載しています。

基本的な考え方と施策の方向

【施策の方向】及び【施策の目標】の基本的な考え方と具体的な取り組みについて記載しています。

施策の執行状況

【施策の方向】及び【施策の目標】の執行状況（進捗度）について、簡潔に記載しています。

〔施策〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】の中で、構成する主要な施策事業を記載しています。

〔事業名〕

- ・主な事務事業を記載しています。

〔指標・計画目標〕

- ・事業の実施による効果が客観的に数値等で測定できるよう項目を設定し記載しています。

〔事業実績〕

- ・指標・計画目標に対する各年度の実績を記載しています。

事業に係る事務事業コスト

〔事業名称〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】に係るものの中で、台東区で実施した事務事業コストを記載しています。

〔 27年度決算額 〕

- ・ 27年度決算額を記載しています。

〔 27年度事務事業コスト 〕

- ・ 27年度事務事業コストを記載しています。

執行状況の評価

【施策の方向】及び【施策の目標】の平成27年度の実績や現在の状況を踏まえて、実績、効率性やコスト、組織・人員の各視点から、評価を行ない、施策の円滑な実施のために必要な課題等を記載しています。

総合評価

「執行状況の評価」での各視点からの評価を踏まえて、実施状況の評価について総合的に記載しています。

今後の方向性

執行状況の検証、総合評価を踏まえ、教育委員会として取るべき今後の対応及び改善策を記載しています。

(3) 主な事業の取り組み

教育施策評価シートにまとめた施策のうち、主な事業の取り組みについて、現状や課題、今後の取り組み等を具体的にまとめました。教育施策評価シートに加え、施策の中心となる個別事業の評価として掲載しています。

4 教育施策評価の結果

施策評価（シート）の結果につきましては、次（頁以降）のとおりです。

平成28年度 教育施策評価シート

施策名 かけがえのない命を大切にしたい豊かな心づくりの推進

1. 現状と課題 (平成27年度末)

【現状】

教育は人格の完成を目指し、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康な子供の育成を期して行われなければならない。規範意識や思いやりの心の育成など、心の教育を重視していくことは教育における不易の取組みと言える。「知・徳・体」の調和のとれた取組みを進める中においても、特に「徳」を教育活動の中心に位置付け、学校園が家庭教育の重要性を踏まえ、家庭や地域と連携しながら「徳」を重視する教育が求められている。

教育委員会では、生命を尊重する心、美しいものや自然に感動する心、集団や個人との関わりの中で他者への思いやりと規範意識・倫理観などの「心」を育てる教育の充実を図っている。また、幼児期から本物に直接触れる体験を充実させ、美しいものに感動する心や豊かな感性の育成に取組んでいる。

(1) 人権教育・生命尊重の教育の推進、規範意識や思いやりの心の育成

人権尊重教育推進校で行った研究成果を基に、区内全校へ普及啓発を行っている。また、小中学校にスクールカウンセラーを配置し、各学校におけるカウンセリング機能を充実させ、いじめや不登校等の問題解決及び早期発見に努めている。

(2) 体験活動の充実

自然体験等様々な体験活動を通して命を大切にしたい心、自然を愛する心を育み、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てている。また、区内の豊かな文化施設等を活かし、芸術に触れる体験を充実させている。

【課題】

(1) 人権教育・生命尊重の教育の推進、規範意識や思いやりの心の育成

人権尊重教育推進校については、研究成果をまとめたリーフレット等について、各校の人権教育担当者を対象とした研修において、活用する方法について説明し、各校で一層の人権教育研修を図っていくことが課題である。また、下町台東の美しい心づくりについては、地区活動が減少傾向にあり、新たな活動も開始されていないことから、開催内容や打診方法等を見直すことが課題である。

(2) 体験活動の充実

小学校のオーケストラや金管バンドなどの活動支援については、学校の規模や児童数を勘案し、指導員を配置しているが、派遣時間に制限があるため、より多い派遣を希望する学校は多いものの、希望に沿うことができないという課題がある。

2. 基本的な考え方と施策の方向

(1) 人権教育の推進

今日的な人権課題を理解し、その解消に向けた態度、実践力を子供たちに育む。いじめや暴力を許さない教育を充実する。

(2) 生命尊重の教育の推進

一人ひとりの命の大切さを重視する教育を幼児期から推進する。ネット社会が加速する中、情報モラル教育や有害情報から子供を守る取組みを充実する。

(3) 規範意識や思いやりの心の育成

幼児期から規範意識の芽生えの育成を大切に、道徳教育の充実を図る。社会の責任ある一員としての公共心、思いやりの心、感謝の心を育成する。

(4) 体験活動・ボランティア活動の推進

自然体験や福祉体験、集団活動を通して命を大切にしたい心、自然を愛する心を育み、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

(5) 芸術に触れる体験の充実

子供たちの音楽・演劇などの活動や鑑賞の機会を充実する。区内に息づく豊かな文化や芸術関連施設を活かし、芸術に触れる体験の充実を図る。

3. 施策の執行状況

施策	事業名	指標・計画目標	事業実績		
			25年度	26年度	27年度
人権教育の推進	人権尊重教育推進校	7校実施	7校	7校	7校
	いじめ問題等情報提供システムの構築	ポスター掲示、大輪掲載 いじめの早期発見	全26校	全26校	全26校
	人権教育研修会	充実	7回	7回	7回
	男女共同参画の推進	継続	全26校	全26校	全26校
生命尊重の教育の推進	いじめ相談カードの配布	小中1年生 全員配布	全員配布	全員配布	全員配布
	スクールカウンセラーの派遣	充実	小学校週2回	小学校週2回 中学校週1回	小学校週2回 中学校週1回
	生活指導・健全育成指導の充実	内容の充実	研修会月1回	研修会月1回	研修会年6回
規範意識や思いやりの心の育成	下町台東の美しい心づくり	11地区実施	11地区	11地区	11地区
	ノーテレビデーの呼びかけ	月1回(23日)実施	全21園	全21園	全21園
	道徳副読本の配布	全校配布	全26校	全26校	全26校
	道徳授業地区公開講座の実施	参加者数 小250人、中95人	小250人 中95人	小250人 中95人	小250人 中95人
体験活動・ボランティア活動の推進	農業体験学習	小学校3校、中学校1校実施	小学校3校 中学校1校	小学校3校 中学校1校	小学校3校 中学校1校
	体験を広げるスクールバスの活用	維持	園52台、 小211台、中4台	園51台、 小212台、中5台	園51台、 小218台、中5台
	台東区青少年をほめる運動	実施	被表彰件数11件	被表彰件数6件	被表彰件数10件
	ボランティア活動の推進	実施	全26校	全26校	全26校
芸術に触れる体験の充実	小・中学校音楽鑑賞教室	実施	全26校	全26校	全26校
	小・中学校連合音楽会	小学校の約半数 中学校全校実施	小学校の約半数 中学校全校実施	小学校の約半数 中学校全校実施	小学校の約半数 中学校全校実施
	小学校のオーケストラや金管バンドなどの活動の支援	1校あたり12時間	1校あたり8時間	1校あたり8時間	1校あたり7時間
	器楽教育の充実	小1校あたり12時間 中1校あたり30時間 配置延べ人数 73人	小1校あたり12時間 中1校あたり30時間 配置延べ人数 74人	小1校あたり12時間 中1校あたり30時間 配置延べ人数 75人	小1校あたり12時間 中1校あたり30時間 配置延べ人数 75人
	楽器有効活用	活用可能楽器の充実	活用可能楽器 小中計 2.05台	活用可能楽器 小中計 2.42台	活用可能楽器 小中計 2.84台

4. 事業に係る事務事業コスト

事業名称	27年度 決算額 (千円)	27年度 事務事業 コスト (千円)	27年度 事務事業 コスト割合 (%)
人権尊重教育推進校	2,815	3,617	3.1%
人権教育研修会(人権教育)	280	440	0.4%
いじめ相談カードの配布(小・中学生健全育成)	195	435	0.4%
スクールカウンセラーの派遣(スクールカウンセラー)	38,727	40,331	34.2%
下町台東の美しい心づくり	1,153	4,120	3.5%
道徳副読本の配布(小副読本支給・中副読本支給)	9,725	10,367	8.8%
道徳授業地区公開講座の実施(教職員研修)	3,023	3,985	3.4%
農業体験学習	6,149	7,352	6.2%
体験を広げるスクールバスの活用(スクールバス運営)	22,038	24,283	20.6%
台東区青少年をほめる運動	99	1,703	1.4%
小・中学校音楽鑑賞教室	3,097	3,498	3.0%
小・中学校連合音楽会	668	988	0.8%
器楽教育の充実(小・中学校器楽教育の充実)	2,586	4,030	3.4%
楽器有効活用	11,019	12,943	11.0%
	101,574	118,092	100%

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	人権教育研修会については、研修内容の見直しや改善を行ったことで、研修参加率が高まった。 体験を広げるスクールバスの活用については、各幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校の年間指導計画に準じて、施設見学や体験活動、園外保育等を行うために、行事専用バスを活用しているが、各学校園の希望する日程でバスを配車できている。 小・中学校連合音楽会については、各校長会と教育委員会、台東区教育研究会が連携して、計画的に実施することができている。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	農業体験学習については、種や苗など年度によって経費が変動する場合がある。また、実習地までの移動に時間がかかる。 小学校のオーケストラや金管バンドなどの活動支援については、東京都交響楽団より示されている年間100時間という制約の中で、各学校への指導員派遣を調整しているが、希望が増えている。各学校の活動の現状を勘案しながら調整していく必要がある。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	男女共同参画の推進については、指導方法や校内研修会など見直しを図りながら改善しており、順調である。 ノーテレビデーの呼びかけについて保育園では、委員を1名選出し2か月に1度会議を開き、情報交換、意見交換をしている。 また、幼稚園・こども園では、園だより等で呼びかけている。 台東区青少年をほめる運動については、毎年、推薦者があり、事業執行体制は適切である。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	人権教育・生命尊重教育等については、人権尊重教育推進校での研究や人権教育研修会等での研修で、教員の人権意識の向上を図り、生命の尊さと自他の生命を尊重する指導の改善を進めており、概ね順調に推移している。 体験活動については、関係部署と連絡・調整しながら計画的に進めており、今後も学校園のニーズを把握しながら、適切に事業を進めていく。
--------------------------------------	--

7. 今後の方向性

規範意識や思いやりの心の育成については、道徳副読本の配布事業を行っているが、道徳が「特別の教科 道徳」として小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から教科となり、検定教科書を使用することとなる。事業としては終了となるが、今後も、社会の責任ある一員としての公共心、思いやりの心、感謝の心を育成していく。

いじめ問題に関しては、各学校がいじめ防止基本方針を作成して取り組んでいる。いじめの情報は、基本的に学校に入るが、区役所関連施設にも情報を提供していただけるよう啓発ポスターを掲示し、いじめ問題等情報提供システムを継続し、学校と家庭、地域でいじめ問題に取り組んでいく。

スクールカウンセラーの派遣については、学校や児童・生徒、保護者にとって、スクールカウンセラーが学校にいて、気軽にカウンセリングや教育相談等を受けることができる。そこで、中学校でも小学校と同じように、週2回配置できるよう検討していく。

下町台東の美しい心づくりについては、各地区の心の教育に関する活動の実施状況の調査に基づき、実際の状況に即した心の教育の推進を行う。その調査を基に、地区学習会開催の働きかけや必要性の見直し、地区学習会を含めた活動の支援策を検討する。

体験を広げるスクールバスの活用については、バスの借上げ料金が増加している等の課題はあるが、現状を維持していくため、仕様書の内容の見直しや関係課によるスクールバス借上げの一括契約等について検討していく。

小・中学校音楽鑑賞教室については、オーケストラの演奏を鑑賞できる機会は、児童・生徒の情操教育の面からも非常に意味のあるものである。実施時期は東京藝術大学より3月を指定されているが、3月は卒業式の練習等もあることから、実施時期については、引き続き検討を進める。

**< かけがえのない命を大切にした豊かな心づくりの推進 の主な取り組み >
「下町台東の美しい心づくり」**

(1) アクションプランの記載内容

台東区の子どもの豊かな心を育むため、家庭・地域・学校・関係機関等が連携し、区民の心の教育の関心を高め、全地区共通事項としての「あいさつ運動」や、講演会の開催等に取り組みます。

(2) 取り組み状況

「下町台東の美しい心づくり」推進方針に基づき、子供たちの豊かな心を育むため、下町の温かな心や地域のふれあいなど江戸の頃より引き継がれた伝統や文化の精神を尊重した心の教育を推進する家庭・地域・学校・関連機関が相互に連携しながら、心の教育を推進できるよう、啓発及び活動支援を図っている。

全地区共通の取り組み

普及・啓発活動として、11地区におけるのぼり旗の掲示や、平成26年度下町台東の美しい心づくり「我が家のルールコンクール」の優秀作品等を取り入れた独自の啓発品を作成し、啓発活動に活用している。

また区内小中学校であいさつ運動を実施している。登校時を中心に児童・生徒や教員によるあいさつ活動が広く行われており、のぼり旗の掲示も合わせて実施されている。

家庭・地域・学校それぞれの関係者が参加する心の教育推進区民会議において、啓発活動の実施状況の報告や活動テーマを決定している。

各地区での取り組み

清川地区では「下町台東の美しい心づくり」推進方針を宣言した平成16年度から、区と青少年育成清川地区委員会が協力し、清川地区声かけ隊（平成27年度登録数167名、年40回実施）や、心の教育に関する講演者や台東区及び清川地区にゆかりのある講演者を招いた地区学習会（平成27年度演題「現代の若者について」、参加者数45名）を実施している。

また、夕涼み会やレクリエーション、青少年フェスティバル等、各地区の青少年育成地区委員会や関係機関が開催するイベントにおいて啓発品の配布を行い、心の教育を推進している。

(3) 課題

小中学校でのあいさつ運動及びのぼり旗の掲示、啓発物品の配布に関しては全11地区で実施され、定着しつつあるが、各地区での活動は地区毎に差があり、積極的な取り組みのない地区の活性化が課題となっている。

また、事業全体としても開始から10年が経過し、子供達を取り巻く環境や地域の状況も事業開始当初から大きく変化しているため、事業内容の見直しが課題となっている。

(4) 今後の取り組み

各地区の活動状況に基づき、活動内容を分析し、活動が低調な地区へ情報提供するなどして支援の充実を図る。

また、台東区に根づく下町の温かな心や地域のふれあいなどを生かすため、各地区の連携を密にするためのシステムの構築や、子供達を取り巻く環境の変化を考慮した地区学習会を見直し、活動の呼びかけ等を行っていく。

下町台東の美しい心づくり事業は、意識改革を目的としているため数値での評価が難しいものであるが、地域のすべての大人たちが子供達を育てる意識や協力のもと、家庭、地域、学校、関係機関が一体となり、長期的視野を持って継続的に取り組んでいく。

平成28年度 教育施策評価シート

施 策 名	伝統と共に生きる豊かな感性の醸成				
1. 現状と課題 (平成27年度末)					
【現状】					
<p>我が国や郷土の伝統や文化を理解し、それを継承・発展させるための教育を充実させていくことが大切である。学習指導要領には、教育基本法の教育の理念として、公共の精神、伝統や文化の尊重などを踏まえ、伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動等を充実することが強調されている。これらの充実を図るとともに、家庭や地域住民の参画を得ながら、子供たち自身が地域の伝統行事や文化財などに触れる機会を通して豊かな感性の醸成を図っている。</p> <p>(1) 芸術への理解の促進 児童・生徒による図工・美術・家庭・技術・書写などの作品を、東京都美術館等に展示し鑑賞する機会を設け、表現力、想像力の向上及び情操教育の充実を目指している。また、児童が伝統芸能に触れる機会や東京藝術大学の学生による中学校音楽科授業等を通して、伝統芸能や音楽に対する興味・関心を高めている。</p> <p>(2) 郷土の伝統・歴史に対する理解の促進 台東区の歴史的資料の保全に努めるとともに、郷土資料の充実を図り、台東区の郷土の歴史や地誌を紹介する企画展やイベントを開催している。また、郷土の歴史・文化の伝承を図り、郷土を愛する心を育むため、「台東区歴史・文化テキスト」の配付や「台東区子ども歴史・文化検定」を実施している。</p> <p>(3) 地元の文化に触れ愛着と誇りを育む教育の推進 民話と伝承遊びの普及委員が、伝承遊びを子供たちに伝えることで、生まれ育った郷土をよく知り、愛する心を育成している。</p>					
【課題】					
<p>(1) 芸術への理解の促進 子供たちが日本の伝統や文化を理解するためには、芸術や伝統文化に直接触れ合う機会を設けることが課題となっている。</p> <p>(2) 郷土の伝統・歴史に対する理解の促進 子供たちが生まれ育った郷土を知り、地元で愛着と誇りをもってもらうためには、台東区にある博物館・美術館、音楽ホール、動物園など多様な文化施設を、教育や保育で効果的に活用できるよう、より多くその機会を設定することが課題である。</p> <p>(3) 地元の文化に触れ愛着と誇りを育む教育の推進 台東区に伝わる伝説や民話、伝承遊びを子供たちに伝えることで、生まれ育った郷土をよく知り、愛する心を育成することが課題となっている。</p>					
2. 基本的な考え方と施策の方向					
<p>(1) 芸術への理解の促進 芸術鑑賞や伝統ある芸能に触れる機会の拡充を図り、「上野の山の文化ゾーン」の活用や大学との連携を進めるなど芸術を理解する教育を進める。</p> <p>(2) 郷土の伝統・歴史に対する理解の促進 台東区歴史・文化検定の実施、図書館や区施設の郷土資料などの活用を図り、総合的な学習の時間などで郷土の伝統・歴史を学ぶ取組みを充実する。</p> <p>(3) 地元の文化に触れ愛着と誇りを育む教育の推進 地域に伝わる民話や伝承遊びなどに幼児期から親しむ取組みを進める。地元の伝統工芸に触れる活動などを取り入れ、その文化への愛着と誇りを育む。</p>					
3. 施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			25年度	26年度	27年度
芸術への理解の促進	小学校演劇鑑賞教室	全校参加	全19校	全19校	全19校
	小・中学校連合作品展	全校参加	全26校	全26校	全26校
	東京藝術大学の学生等による音楽、部活動等への指導	継続	継続	継続	継続
郷土の伝統・歴史に対する理解の促進	郷土資料の充実・整備	資料室利用件数 77,000件	58,764件	58,761件	58,770件
	社会科副読本の配布	小学校3年生 全員配布	全員配布	全員配布	全員配布
	伝統・文化、歴史、美意識、礼節などの継承と発展	情操教育の推進	推進	推進	推進
	台東区歴史・文化検定	実施	受検者 167名	受検者 146名	受検者 1,598名
地元の文化に触れ愛着と誇りを育む教育の推進	多様な主体の参画による学習の展開	外部人材の活用	全校園	全校園	全校園
	AVライブラリーの充実	3,600点	3,188点	3,510点	3,761点
	台東区民話と伝承遊びの普及	台東区内の子供たちに郷土愛を芽生えさせる	延べ 59校園	延べ 61校園	延べ 59校園

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	27年度 決算額 (千円)	27年度 事務事業 コスト (千円)	27年度 事務事業 コスト割合 (%)
小学校演劇鑑賞教室(能・狂言の鑑賞)	3,822	4,063	6.4%
小・中学校連合作品展	704	945	1.5%
郷土資料の充実・整備(郷土資料の記録と整備)	5,717	22,559	35.4%
社会科副読本の配布(小副読本支給)	8,138	8,459	13.3%
台東区歴史・文化検定	1,392	6,215	9.8%
AVライブラリーの充実	7,282	18,992	29.8%
台東区民話と伝承遊びの普及	852	2,456	3.9%
	27,907	63,689	100%

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	小学校演劇鑑賞教室、小・中学校連合作品展、東京藝術大学の学生等による音楽科授業、部活動等への指導など、計画的に実施している。 台東区歴史・文化検定については、「台東区歴史・文化テキスト」の配付と活用を適切に行っている。また、「台東区子ども歴史・文化検定」は、受検方法の見直しにより受検者を増加することができ、順調に推移している。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	郷土資料の充実・整備については、区民や利用者のニーズの高い展示や資料収集に努める必要がある。また、未整理資料があるため、優先順位を決めて行っていく必要がある。 台東区民話と伝承遊びの普及については、普及活動の教材及びその材料の余剰を極力出さないようにするなど、引き続き経費の削減に努めている。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	小・中学校連合作品展については、運営委員及び連絡委員との連携により、計画的に実施されている。 郷土資料の充実・整備については、企画展や資料整理など業務の重要性が高く、作業に時間や手間もかかるため、区職員、図書館奉仕員、専門員がより効率的に取り組んでいる。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「台東区子ども歴史・文化検定」で学校ごとの受検(団体受検)を実施し、受検者数が10倍以上になるなど、改善を進めており、概ね順調に推移している。 小学校演劇鑑賞教室や東京藝術大学の学生等による音楽、部活動等への指導などは、関係団体と連携をとりながら計画的・継続的に実施できており、事業全体は順調である。
--------------------------------------	---

7. 今後の方向性

東京藝術大学の学生等による音楽、部活動等への指導については、連合音楽会などの連携ではなく、中学校音楽科授業及び部活動における指導等、定期的な連携を図ることができるよう、年度当初に計画を立てる。

郷土資料の充実・整備については、未整理資料リストの作成を行い、資料整理の優先順位をつけ着手する。また、新収蔵資料を積極的に企画展に展示するなど、企画展内容の見直しを行う。

台東区民話と伝承遊びの普及については、普及委員養成講座が3年目を迎え、普及委員数を平成25年度の9名から平成27年度に14名へと増やすことができた。よりよい活動ができるよう、普及委員会・活動の内容の充実と、新規普及委員のスキルアップを図る。普及活動の安定的な運営と、個性豊かな普及委員のそれぞれのスキルを発揮することができるように、新規教材の開発など普及委員会の内容の充実を図っていく。

< 伝統と共に生きる豊かな感性の醸成 の主な事業 >
「伝統・文化、歴史、美意識、礼節などの継承と発展」

(1) アクションプランの記載内容

幼児・児童・生徒が発達段階に応じて台東区の伝統・文化、歴史に関する知識を深めるとともに、美意識、礼節について理解できるよう情操教育を推進します。

(2) 取り組み状況

教育基本法では、教育の目標の一つとして、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と記され、教育基本法に基づき改訂された現行の学習指導要領では、伝統や文化に関する教育や道徳教育の充実のほか、体験活動等を重視することの必要性が示されている。

本取り組みでは、各学校園が、家庭や地域住民の参画を得ながら、子供たち自身が地域の伝統行事や、作法・礼節を学ぶ体験活動の充実を図っている。

各学校（園）での取り組み

幼稚園・こども園

- ・お茶会やコンサート、昔遊びなど本物に触れる経験や日本の伝統文化に触れる機会をつくり、自国の伝統についての理解を促進している。
- ・酉の市見学や「昔のお正月を楽しむ会」、長寿会との交流等、台東区の伝統文化に触れたり、地域の方に関わったりする機会を設定し、地域の人・環境に対する親近感を育てている。
- ・行事等、地域との関わりの内容を掲示で示し、幼児や保護者へ発信していくことで、幼稚園を取り巻く地域の人に対する親近感や感謝の気持ちを育てている。
- ・盆踊りやもちつきなど、季節や地域の行事に積極的に参加し、太鼓の会や昔遊びなど、地域協力者の力を保育に取り入れることで、地域への親しみや愛着がもてるようにしている。
- ・年間2回の「お茶会」で茶器や作法に触れたり、地域に伝わる民話や伝承遊びに親しんだり、自分で作った和風を揚げる喜びを味わったりすることで、豊かな感性を醸成し、情操を育てている。

小学校

- ・授業の中で、俳句や能などの地元の文化に触れ、愛着と誇りを育む教育を推進している。

- ・「台東区俳句人連盟による俳句教室」「著名な落語家による落語教室」「専門性の高い外部講師による茶道教室や箏教室」等を実施し、伝統・文化に触れる学習を通して、豊かな感性や資質・能力を養うとともに、地域の方との心の交流を図っている。
- ・地域の人材や文化・特色から学ぶ体験的な学習を展開し、「ふれあい学習」や「邦楽教室」「落語教室」「茶道教室」「俳句教室」等を通して豊かな人間性の育成を図っている。
- ・台東区の道徳副読本「こころざし高く」を年間指導計画に位置付け、我が国の伝統文化、国際社会や異文化への理解を深めるとともに、夢や希望を掲げ、その達成に向けて努力しようとする心情を育てている。
- ・全学年で茶道教室を年間3回実施し、我が国への伝統文化への理解を深め、おもてなしの心を育てている。
- ・地域の人材を活用した出前授業（組み紐体験・東京銀器作成・戦争体験講話）を実施し、地域を思い、地域を大切にする児童を育てている。
- ・郷土の歴史や文化、地域に住む方々に対する理解を深め、地域に対する愛着と誇りを育むために、図書館や区施設の郷土資料などの利用、地域に伝わる民話や伝承遊びなどを教育活動に積極的に取り入れている。

中学校

- ・地域人材（伝統工芸士等）や地域文化施設を利用し、生徒が郷土の伝統・文化、歴史を学ぶ取り組みを行っている。
- ・百人一首大会、全校書初め展、伝統文化にふれる会（落語）等を通して、日本の伝統文化を尊重し、受け継いでいく心を育成している。
- ・伝統・歴史・文化・芸能・地域の宝物を受け継ぎ、豊かな心を育てている。その一環として、校外学習では区内文化施設を積極的に利用して、地域理解を図っている。

(3)課題

各学校（園）において、地域の特色を生かし、特徴的な取り組みを行って成果を上げており、現段階では大きな課題はない。

(4)今後の取り組み

各学校（園）において実施した内容や授業等で用いた資料、招聘した講師について等、様々な機会を活用して情報共有を図り、区全体の伝統・文化教育の推進をより図っていく。

平成28年度 教育施策評価シート

施 策 名	生涯学習推進システムを確立する				
1. 現状と課題 (平成27年度末)					
【現状】					
<p>ますます多様化する現代社会においては、生涯学習で取り組むべき課題も、複合的なものとなっている。社会に多様な学習の機会や場が豊富に開かれている今日では、学習情報を探索していく姿勢と、自らが学習情報を発信していく姿勢の両面が求められている。そのため、多様な学習情報の収集と提供を行う総合的なシステムの整備が必要となっており、学習情報の収集・供給システムの一元化を図るため、下記の取り組みを進めている。</p> <p>(1) 生涯学習の場の整備 区民の学習拠点である既存の教育・スポーツ施設の運営を充実させ、関係機関との連携を図るなど効果的な活用に向け、「生涯学習センター」「社会教育センター・社会教育館」では、利用者の要望等の把握に努めている。また「図書館」では、ICTタグシステムの活用により迅速で適切な図書館サービスに努めている。広い敷地が少ない台東区では「学校開放」により、地域や団体のさまざまな社会活動を充実している。また、学習の場の開発と拡張のため「生涯学習ガイドブック」の発行を通じて関係団体等の情報を把握している。</p> <p>(2) 学習情報提供・相談システムの充実 生涯学習センターの「学習相談コーナー運営」で、区民などの相談に対応しているほか、社会教育センター・社会教育館では、指定管理者が積極的に相談等を行い区民の活動支援を行っている。また、生涯学習センターニュースの発行などにより利用者への情報提供を行っている。</p> <p>(3) 生涯学習推進体制の整備 「生涯学習推進庁内体制の構築」として、関係所管課による生涯学習施策庁内推進委員会を設置し、生涯学習推進プランの進行管理や事業の見直しを行っている。</p>					
【課題】					
<p>(1) 生涯学習の場の整備 学習の場である社会教育センター・社会教育館、生涯学習センターなどを運営しているが、開設から50年を経過した施設もあり、設備等の老朽化とあわせて和室など特定の設備については稼働率が特に低くなるなど、利用者のニーズと設備との乖離が出ている。また図書館の持つ資料の積極的な活用についても課題となっている。</p> <p>(2) 学習情報提供・相談システムの充実 区民意識調査等から生涯学習に関する情報の収集にインターネットを利用している区民が多く、従来からの情報提供の手段にあわせて多様な学習情報の収集と提供を行う総合的なシステムの整備が必要となっている。また、学習活動を支援するため、区内だけに限定しない学習情報の収集・整理・保存・更新・配信に関する機能を充実することが課題となっている。</p> <p>(3) 生涯学習推進体制の整備 生涯学習に関する各種の情報の収集や提供などについて、関連する団体と連携した体制をつくるのが課題となっている。</p>					
2. 基本的な考え方と施策の方向					
<p>(1) 生涯学習の場の整備 学習の場である社会教育館等の施設形態や運営内容の充実を検討し、大規模改修等に合わせて改善を図っていく。また、図書館では、資料の収集・保存・提供サービスの強化充実を図るなどの検討を進める。</p> <p>(2) 学習情報提供・相談システムの充実 区民が気軽に相談でき、生涯学習を進めるためのさまざまなきめ細かな対応のできる窓口の充実を図るとともに、ICTを活用した情報の収集・提供システムを検討していく。</p> <p>(3) 生涯学習推進体制の整備 関連する団体等と協議を進め、連携しながら生涯学習情報の収集・提供等を行い、総合的な推進体制を目指す。</p>					
3. 施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			25 年 度	26 年 度	27 年 度
施設の運営・有効活用	施設の有効活用 (生涯学習センター管理運営)	実施(利用者数)	313,957人	355,099人	353,892人
	施設の有効活用 (社会教育センター・社会教育館)	実施(利用者数)	120,976人	118,091人	121,090人
	図書館	貸出点数 1,692,000点	1,643,563点	1,629,057点	1,716,003点
	学校開放	実施 (延べ利用者数)	478,281人	463,334人	496,604人
生涯学習の場の開発と拡張	生涯学習関連組織とのネットワーク化	調査検討	検討	検討	検討
	生涯学習ガイドブックの発行	発行部数 3,000部	2,500部	6,000部	3,000部
学習相談機能の質的向上と拡張	学習情報コーナー運営	実施	実施	実施	実施
	学習相談	実施	実施	実施	実施
多様な媒体による学習情報の提供と体制の整備	ホームページ等を活用した情報発信の拡大	実施	実施	実施	実施
	生涯学習センターニュースの発行	発行部数 24,000部	24,000部	24,000部	24,000部
総合的生涯学習推進体制の整備	生涯学習推進庁内体制の構築	実施	実施	実施	実施
	生涯学習センターの機能の充実	利用者数 356,000人	313,957人	355,099人	353,892人

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	27年度 決算額 (千円)	27年度 事務事業 コスト (千円)	27年度 事務事業 コスト割合 (%)
施設の有効活用(生涯学習センター管理運営)	213,712	223,067	29.1%
生涯学習センターの機能の充実(生涯学習センター管理運営)			
施設の有効活用(社会教育センター・社会教育館)	146,122	156,388	20.4%
学習相談(社会教育センター・社会教育館)			
図書館(図書館管理運営)	279,081	367,808	48.0%
学校開放	1,170	1,190	0.2%
生涯学習関連組織とのネットワーク化(生涯学習の支援・振興)	10,030	17,248	2.3%
生涯学習ガイドブックの発行(生涯学習の支援・振興)			
学習情報コーナー運営(生涯学習の支援・振興)			
生涯学習センターニュースの発行(生涯学習の支援・振興)			
	650,115	765,701	100%
5. 執行状況の評価			
評価の視点	評価	課題等	
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	生涯学習センター、社会教育センター、社会教育館、図書館、学校開放、スポーツ施設等では、施設の維持管理を適切に行うことで、利用者数の実績の維持、向上に努めているところである。利用形態や団体の構成員等の変化により、社会教育館の和室の利用率が低いなどの課題がある。 また、ガイドブックやセンターニュースなどの情報提供については、適切に発行している。	
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	社会教育館等においては指定管理者制度を導入し、サービスの質を維持しつつ、民間企業のノウハウを活用した運営を行っている。 ガイドブックやセンターニュースなどの周知用印刷物は、配布実績を勘案して効率的な数量の制作・配布を行っている。	
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	施設の管理・運営は指定管理者制度などを活用することで職員が担当する事務に集中することが可能となり、適切な執行体制となっている。また社会教育の専門職員として社会教育主事や社会教育指導員を採用し、より専門性の高い事業の執行を行っている。	
6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)			
A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	生涯学習の場の整備として、社会教育館等においては指定管理者制度などを活用し、適切に運営している。施設の利用実績もおおむね増加傾向にあり、周知事業も当初の予定どおり実施していることから、順調である。		
7. 今後の方向性			
<p>学習の場の整備については、社会教育センター・社会教育館は、今後の施設改修等に合わせ、より利用しやすいような設備等の検討を進めていく。あわせて、区民のニーズに合った、幅広い内容の講座開催などさまざまな学習機会を提供し、利用率の増加に繋げていく。学校開放については、改築や大規模改修などが継続することで、利用可能な期間が減少するため、利用率を分析し、空き時間のある学校については、各コミュニティ委員会及び地域団体等に働きかけていくことで、利用率の増加を図る。</p> <p>図書館では、平成28年度に策定した「台東区立図書館の基本的な考え方～目指す図書館像と基本方針～」に基づき、目指す図書館像の実現のため、社会情勢や区民ニーズに即した資料収集を行い、誰もが利用しやすい環境を整備するほか、子供が本に親しむ契機の提供や、台東区の歴史や文化などに触れる機会の充実、気軽に図書館を利用し、本や図書館が人との出会いや地域における交流を深める契機となる取組みなどを行う。</p> <p>情報提供については、既存の生涯学習ガイドブック・生涯学習センターニュースの発行、ホームページでの情報掲載とあわせ、ガイドブック掲載団体をデータベースとして公開することを視野に入れつつ充実できるよう検討を進めていく。</p> <p>生涯学習推進体制の整備については、社会教育委員や関係団体との定例的に開催される会議や会合などを通して課題を整理し検討を進めていく。</p>			

<生涯学習推進システムを確立する の主な事業>

「生涯学習の支援・振興」

(生涯学習関連組織とのネットワーク化 / 生涯学習ガイドブックの発行 / 学習情報コーナー運営 / 生涯学習センターニュースの発行)

(1) 生涯学習推進プランの記載内容

生涯学習関連組織とのネットワーク化

区内の生涯学習関連の情報提供組織や団体等と連携するとともに、生涯学習推進のためのネットワークづくりを進めます。

生涯学習ガイドブックの発行

半年ごとに発行する「講座・イベント編」と2年ごとに発行する「団体・サークル編」について、新たな学習の場や情報を掘り起し、団体・サークルに呼びかけをするなど内容の充実を図ります。

学習情報コーナー運営

生涯学習センター内の学習情報コーナーを、区民が生涯学習を進めるための情報や学習の進め方など、生涯学習全般について相談できる窓口としていきます。また、ICT技術を活用した相談への対応など、更なるサービスの充実について検討していきます。

生涯学習センターニュースの発行

生涯学習センターの広報誌としてセンターニュースを発行し、生涯学習の支援・振興に資する情報を提供していきます。

(2) 取り組み状況

生涯学習関連組織とのネットワーク化

生涯学習ガイドブック「団体・サークル編」の作成に合わせ、各サークルや団体の活動状況等の情報を収集している。

生涯学習ガイドブックの発行

「講座・イベント編」は平成28年9月に発行しており、平成29年3月に平成29年度前半の情報を掲載したガイドブックを発行予定である。また、「団体・サークル編」は平成29年3月に発行予定である。社会教育センター、社会教育館でもサークルに入会したい人への紹介を実施している。

学習情報コーナー運営

平成28年度より社会教育指導員を配置し、生涯学習全般について相談できる体制の強化を図っている。

生涯学習センターニュースの発行

毎月1日に、生涯学習センターの催し物を載せたニュースを2,000部発行している。また、ホームページにも掲載している。

(3) 課題

生涯学習関連組織とのネットワーク化

社会教育登録団体などの自主学習グループやその連合体、一部NPOなどは、文化祭などの事業を通してネットワークを築いているが、今後は大学や文化施設などの区内の各種団体とのネットワークを構築していくことが課題となっている。

生涯学習ガイドブックの発行

生涯学習ガイドブックを使用した問い合わせは頻繁にあるが、冊子であるため、発行日から時間が経つと情報が古くなり、常に最新の情報を掲載することが出来ない。最新の情報を提供するには紙媒体ではなく、電子媒体での情報提供が必要である。

学習情報コーナー運営

学習情報コーナーには社会教育指導員を1名配置しており、また社会教育センター、社会教育館でも生涯学習に関する相談に対応している。人口の増加や外国人への対応などを見据えたコーナーの充実が課題となっている。

(4) 今後の取り組み

生涯学習関連組織とのネットワーク化

ネットワーク化に向け、協働の取り組みと連携して情報の収集・整理を行う。また、情報提供の方法について、引き続き検討を進める。

生涯学習ガイドブックの発行

内容の充実を図るとともに、電子媒体での提供を含めた検討を行う。

学習情報コーナー運営

相談窓口の人員増を図り、相談体制を強化する。

平成28年度 教育施策評価シート

施 策 名	地域力を高める				
1．現状と課題 (平成27年度末)					
【現状】					
<p>よりよいまちづくりを進めていくためには、複雑・多様化する課題に対し、自立した市民が公共的な視野から積極的に意見を述べ、かつ協力する姿勢を通して、住民と行政の協働によって課題解決を図っていくことが求められている。地域の優れた人材や場やものなどの社会資源を効果的に活用するとともに生涯学習を通して、地域活動への参加などを進めるための事業を実施している。</p> <p>(1) 地域資源の見直し 多様な区民の学習を支援するため、地域の人材資源である「学習支援ボランティア」の登録とその周知を行っている。また、「たいとうやまびこ塾」においては、学習支援ボランティア登録者に講師として知識や技能を活用し講座に参加してもらうことで、「学んだ人」の活躍の場の提供と、「学んでみたい人」に対する学習のきっかけづくりの機会を提供している。</p> <p>(2) 自主学習グループ等の支援 地域力を高めるため、自主的な学習グループや団体への活動加入のきっかけづくりとして「生涯学習ラーニングスクエア」を社会教育関係団体の協力で実施している。あわせてそれらの団体に対して「文化・スポーツ連合体への支援」を行っているほか、団体間の交流を促進するため、各団体が参加する「文化祭」の実施などの支援も行っている。また、団体やサークルの情報を記載したガイドブックを作成するなど、団体や活動の周知も図っている。</p>					
【課題】					
<p>(1) 地域資源の見直し 自主的な講座やサークルなどへの参加は新しい仲間との出会いをもたらし、継続的な学習を生み出すことから、こうした活動を活性化していくために、町会や地域活動団体、NPO、企業、行政が連携・協働し、多様な地域活動と学習活動のネットワークを充実していくことが課題となっている。</p> <p>(2) 自主学習グループ等の支援 自主学習グループや団体に参加しやすくするための情報提供の一層の充実が課題となっているほか、自主学習グループ等の構成員の高齢化にともない構成員が減少しているなどの課題がある。</p>					
2．基本的な考え方と施策の方向					
<p>(1) 地域資源の見直し 生涯学習ラーニングスクエアや区内の団体が集う文化祭など、学習グループの活動について、周知や出会いの場を作ることにより、学習意欲を促進するとともに、多様な地域活動を支援する。</p> <p>(2) 自主学習グループ等の支援 自主的な学習グループ・団体の運営や活動に関する相談を行うとともに、参考となる他グループ・団体の情報を提供するなどして運営の支援を行うとともに、新たに学習に参加したい人に対して適切に情報を提供できるよう、従来の周知方法にあわせインターネット等を利用した新たな情報提供手段を検討していく。</p>					
3．施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			25 年 度	26 年 度	27 年 度
地域社会への支援	社会参加活動促進	実施回数 1回	1 回	1 回	0 回
地域資源の発掘	学習支援ボランティア	新規登録 10件	2 件	5 件	7 件
地域資源の活用と運用支援	たいとうやまびこ塾	講座数 40講座	31講座	30講座	46講座
団体活動加入の「きっかけづくり」とその組織化と育成	生涯学習ラーニングスクエア	講座数 53講座	53講座	54講座	53講座
	文化・スポーツ連合体への支援	実施(団体数)	20団体	20団体	19団体
自主学習グループ相互の交流促進	文化祭	来場者数 7,600人	7,302人	7,518人	7,098人
	自主グループ活動支援	発足数 8団体	7団体	7団体	7団体

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	27年度 決算額 (千円)	27年度 事務事業 コスト (千円)	27年度 事務事業 コスト割合 (%)
学習支援ボランティア(生涯学習の支援・振興)	10,030	17,248	8.6%
たいとうやまびこ塾(生涯学習の支援・振興)			
生涯学習ラーニングスクエア	8,690	11,899	5.9%
文化・スポーツ連合体への支援	7,420	12,790	6.3%
文化祭	135	3,343	1.7%
自主グループ活動支援(社会教育センター・社会教育館)	146,122	156,388	77.5%
	172,397	201,668	100%

5. 執行状況の評価		
評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	社会参加活動促進では、平成27年度の実績がなかった。学習支援ボランティア事業では、ボランティアの新規登録が当初の目標数まで達していない。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	平成27年度の社会教育センター・社会教育館は、経費が前年度より約500万円減となっているが、利用者が前年度より0.6ポイント微増し、利用収入も前年度と比較して2.3%増加している。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	社会教育センター・社会教育館の管理運営では、平成18年度から指定管理者制度を導入しているが、指定管理事業者は、サークルフェスタ等自主的な活動も実施しており、施設間の連携も図っているため執行体制上の課題は特に見当たらない。

6. 総合評価 (上記5の～に基づいた総合評価)	
B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	施策全体としては、おおむね計画どおり進捗している。しかし、社会参加活動促進での実績がないことや学習支援ボランティアの新規登録者が目標数まで増えていない課題がある。

7. 今後の方向性

生涯学習ラーニングスクエアについては、パソコン講座において、講座応募者数の減少に鑑み、コースをインターネット基礎コース・ワード基礎コース・エクセル基礎コースへとニーズに合わせて細分化することで応募者数の増加を図る。あわせて、タブレット講座の新設など講座内容の見直しを行っていく。

また、社会教育委員の会議の研究調査として、社会教育におけるICTの活用をテーマとし、パソコン講座の必要性や内容を検討しているため、その内容を反映していく。

文化祭については、主催者である台東区社会教育団体協議会の各団体の学習成果をより多くの区民に見てもらえるよう、団体間の連携をさらに強められるイベントとなるよう実行委員会での検討を深めていく。平成29年度が50回の節目の会となるため、記念回にふさわしい内容となるよう関係者と協議していく。

学習支援ボランティア、たいとうやまびこ塾については、区民の多種多様な学習ニーズに応えるため、やまびこ塾の講座内容を多様化させていく。

文化・スポーツ連合体への支援については、社会教育団体協議会の各連合体において、団体構成員の高齢化や役員の担い手不足などの課題が生じている。各団体の事業について助成を行うとともに、団体の活動が今後も充実・継続できるような支援策を検討する。

生涯学習については、これまで以上に地域の多様な主体との連携・協働を図ることで、新たなニーズへの対応や新規の参加を図る方策について、庁内での検討を進めていく。

< 地域力を高める の主な事業 >

「生涯学習ラーニングスクエア」

(1) 生涯学習推進プランの記載内容

各種の学習機会を提供し、学習意欲の向上を図り、グループ化を進めるとともに社会教育関係団体の協力を得ることにより地域の教育力の向上を図ります。

(2) 取り組み状況

生涯学習ラーニングスクエア

対象者別に「16歳以上対象」「子供とその保護者対象」「55歳以上対象」の講座を設け、ライフステージに応じた講座を実施している。

「16歳以上対象」

学ぶことの楽しさを知る
自主的・主体的に学習が続けられる力を身につける
仲間とともに学びつづける方法を身につける

「子供とその保護者対象」

親と子がコミュニケーションを深め、学ぶことの楽しさを知る
子供たちの興味や関心が広がる
親が、子供たちの興味や関心を広げていくようなものの見方、
考え方ができるようになる

「55歳以上対象」

健康をはじめ、社会生活、福祉等、高齢者の課題解決に向けて学習
する
生きがいや経験を社会に生かすための学習を行う

27年度の実施状況

対象	講座数(延日数)	定員	申込者数	延受講者数	倍率
16歳以上	43講座(324日)	804人	519人	4,647人	0.65
子供とその保護者	5講座(31日)	126人	287人	551人	2.28
55歳以上	5講座(44日)	120人	164人	689人	1.37

パソコン講座

情報リテラシーをはじめとする地域におけるICT活用の推進と地域ネットワーク構築のため、以下の2講座を実施している。

初心者コース

ほとんどパソコンを使用した経験のない方を対象にパソコンに関する基礎的知識の習得を目的とした講座

ワード・エクセル基礎コース

パソコンの基本操作・文字入力ができる方を対象に、ワード・エクセルを用いた基本的なデータの作成技術の習得を目的とした講座

27年度の実施状況

コース	定員	申込者数	延受講者数	倍率
初心者	198人	71人	384人	0.36
ワード・エクセル基礎	198人	133人	643人	0.67

(3)課題

平成25年度を境にパソコン講座の受講者数が減少を続けている。現在の講座内容が区民ニーズと乖離している部分があるため、区民の求める講座内容に改善することが課題となっている。

(4)今後の取り組み

ラーニングスクエアについては、区民が潤いと生きがいのある生活を送ることに一定の効果을上げている。今後も学びを通じた区民のつながりの強化を図る。

パソコン講座については、平成28年度にインターネット基礎コース・ワード基礎コース・エクセル基礎コースへと講座内容を細分化することで応募者数の増加を図っている。今後も、区民のニーズに合わせた講座内容の見直しを行い、事業の効果を高めていく。

また、社会教育委員の会議の研究調査として、社会教育におけるICTの活用について検討しており、その内容を講座へ反映していく。

5 学識経験者による意見

尾木 和英（東京女子体育大学名誉教授）

【かけがえのない命を大切にしたい豊かな心づくりの推進】

- ・生命尊重、豊かな心づくりは教育活動の中核に位置する。

しかし現代は急激な進展、波乱の時代であり、その中で豊かで安らかな心を養い人間形成を進めることには難しさが伴うようになっている。

それだけに、厳しい挑戦の時代であることの認識に立って、心の教育、人間づくりにかかわる諸事業を効果的に行うことが重要になる。

本施策に関しては、この基本認識に基づき、台東区という地域、各学校の実態の把握に立って、五つの柱のもとに施策の方向を明確にし創意を生かして各事業を展開している。

それぞれの事業について、中心課題が確かに押さえられ、適切に事業展開の行われていることが把握できた。

- ・最近の子供たちの抱える課題も視野に入れながら、着実に人権教育にかかわる事業が推進されている。

人権意識を確かに育てるなど成果を上げているが、新たな課題も生じているので、いじめ、不登校などの問題の防止徹底、男女共同参画などの内容を中心に、研修の一層の充実を望みたい。

- ・生命尊重に関して、全国的には痛ましい事件が後を絶たないという実態がある。また、新しい傾向として、ネットに関わる問題の深刻化も懸念される。

いじめ相談カード配布の機会や関連する研修会等の機会に、最近各地で起きている事例や対応事例等を紹介するなどして、指導の重点の共有を促すことが重要である。

- ・規範意識等の育成については、台東区の良さを踏まえた事業展開など、子供の意識に働きかける事業展開が把握できた。学校教育において道徳教育の充実が図られるだけに、教室の指導を支えるこうした着実な活動を大切にしたい。

- ・体験活動、ボランティア活動がきめ細かくていねいに実践に移されていることが把握できた。最近の子供たちについては、年々体験の機会が減少する傾向にあるだけに、今後も、現在の基本姿勢を大事にする必要がある。

- ・芸術体験に関わる事業が着実に展開されている。

最近の子供の生活環境には偏りが認められ、芸術に触れる機会は必ずしも多いとは言えない。それだけに、文化活動・施設に特色を持つ本区ならではの事業展開になるよう、一層の充実を期待したい。

【伝統と共に生きる豊かな感性の醸成】

- ・現在各学校に学ぶ子供たちは、地域社会の将来を担う人材である。その子供たちが、伝統文化に関して学び、台東区の文化に触れ愛着を持ち、豊かな感性を身に付けることには大きな意味がある。

本施策に含まれるそれぞれの事業については、こうした認識に基づく施策の方向を踏まえ、適切に企画され実施に移されていることが把握できた。

例えば、台東区にある博物館、美術館、音楽ホール、動物園などの施設を、移動時間等の大きい負担なしに利用できるというのは本区の持つ利点といえる。事業展開に関し、台東区の有する特色、強みを生かして創意工夫の加えられている点が特に評価できる。

- ・「芸術への理解の促進」に盛り込まれた体験活動や東京藝術大学との連携などを生かした各学校における教育活動は、学校での指導を開かれたものに行っている。学校での教育活動は、教室での授業を中心とするだけに、学習が体験を離れ実感の薄いものになる場合がある。本事業はその点において意味があり、展開される活動によって、子供たちは自然な形で伝統文化や芸術活動を身近なものとしてとらえるに違いない。

豊かな感性を育てることは、学校における教育活動だけでは十分とはいえない面があるだけに、今後も事業の内容等の見直しによって一層の充実を図ることが求められる。

- ・地域の絆づくりと学校の教育活動を重ねてとらえようとする動きが強くなっている。地域と学校を結ぶ教育活動の根底に働くのは、子供の伝統への理解であり郷土への愛着である。

郷土資料の充実や社会科副読本活用などの事業はその点で重要な役割を果たしている。台東区歴史・文化検定も特色のある、かつ、効果的な活動であるので、今後、事業の企画や実施の仕方に一層の充実が望まれる。

例えば、資料室利用件数なども、この3か年は同水準で推移しているが、この数字をどのようにとらえるのか、さらには資料室を利用した学習内容についても目を向け、今後の充実を図るといった基本姿勢を大事にしたい。

- ・地元文化に触れる活動・教育に関わる事業は、それぞれに特色があり、特有の意義を有する。

すべての事業について言えることであるが、継続的な事業については、ややもすれば前年度の実施を踏襲する面が出がちになる。前年度の活動を踏まえることには意味があるが、新しい内容が必要となることもある。また、子供の立場からは、積み重ねによって得ること、複数の活動が相乗的に子供に働きかけるといった面もあるだけに、各年度の活動状況について多角的に検討を加え、新たな活動の企画の可能性も含め、より良い事業になるための努力を払うことを求めたい。

【生涯学習推進システムを確立する】

- これからの台東区の発展にとっては、学校教育の充実を視野に入れた生涯学習推進体制を確立することが重要な課題である。

しかしながら、生涯学習の推進に関しては、対象となる内容が多岐に渡るので、これをどう整理してとらえ、ライフステージに応ずる学習機会をどう押さえるかなど、難しい問題がある。

本区においては、的確な実態把握に基づいて、当面する課題を生涯学習の場の整備、学習情報提供・相談システムの充実、生涯学習推進体制の整備というように把握し、ここから施策の方向を定め、効率的に事業展開を進めている点が評価できる。

- 施策の重点を五つに整理し、そこに実際の事業を位置づけ指標を明確にしていることは、事業の趣旨・目的を適切にする上で効果的である。ただし、今後については、事業内容を固定化させるのではなく、定期的に見直しをし、区民のニーズに応える事業展開になるよう留意することが望まれる。

- 施設の有効活用に関しては、事業展開による一定の成果が把握できた。これまでの実績に立って一層の充実を図るため、活用状況の把握について工夫し、管理運営について改善の必要がないかどうかについてきめ細かな検討を加えることが求められる。

- 冒頭に記したように、生涯学習の内容には様々なものが含まれ、関連する活動組織も様々である。

全区的に生涯教育を効果的に進めるためには、それぞれの事業について個々切り離された形で事業展開をするのではなく、互いに連携を図ることが望ましい。そのための方策について、これまでの努力を大切にしながら一層工夫の凝らされることを期待したい。

- 生涯学習ガイドブックについては、情報媒体の多様化が急激に進んでいるので、次の要素を分析的に捉えた上で、受け手の立場も考慮に入れ事業の一層の効率化を進める必要がある。

区民のニーズ、区民が多く利用している情報媒体の把握。

ガイドブックに盛り込みたい内容の精選。

紙媒体になじむ内容、電子媒体になじむ内容の検討。

必要予算の効率化。

- ICTの機能が急激に高度化、多様化しつつあり様々な利用が可能になっている。生涯学習推進に関しても、ICT活用の対象、方法、利用価値などについて見直しをすることが必要になっている。

様々な利用が考えられるだけに、ICTを利用した情報発信に関して新しい企画がないかどうか、情報の収集・提供システムに改善の余地がないかどうかについて更に検討を加えることが求められる。

【地域力を高める】

- ・「地域力を高める」という基本姿勢のもと、各事業の効率化を考えて教育施策が方向付けられている点が評価できる。

地域力にかかわる問題点に関しては、教育に関連して、中央教育審議会の審議の中でも地域社会の結びつきや支えあいの希薄化等による地域社会の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性などが指摘されている。

本施策においては、そうした点も踏まえ、区民との協働による課題解決、地域資源の見直し、地域住民の自発的な活動の支援などが確かに押さえられ、施策の方向が適切に定められている。

- ・生涯学習ラーニングスクエアに関しては、「16歳以上対象」「子供とその保護者対象」「55歳以上対象」というようにライフステージに応じる講座を設定し、目的を明確にして実施に移しており、そのことによって講座内容の充実が図られている。

今後については次の点について、さらに検討を加えることが望まれる。

16歳以上対象については、キャリア教育の内容を加え、進路意識の明確化や成熟化に役立つ内容があってもいいのではないかと。

子供とその保護者対象については、自立の基礎にかかわる内容、遊びの意義にかかわる内容、友達作りの基礎にかかわる内容などが加えられてもよいのではないかと。

55歳以上対象については、時間的に余裕の出来る65歳前後の方の学習ニーズについて特にきめ細かい把握をし、その期待に応えるような内容を盛り込むようにしてもよいのではないかと。

- ・社会全体にわたって高齢化が進んでいるだけに、団体活動加入のきっかけ作りには大きな意味がある。

いかに周知を図るか、いかにして多くの方に働きかけるか、いかにして魅力的な講座、活動を設定するか、といった課題意識を持ち、事業の充実を図ることが求められる。

- ・たいとうやまびこ塾、文化祭、自主学習グループにおける活動は、そこでの活動に盛り込むことのできる内容に弾力性があるものと思われ、参加者の多様なニーズに応じることが出来やすいものと考えられる。活動の一層の充実・発展という面から考えて、そこで行われる内容の充実に向けての見直しを大切にしたい。また、活動の成果を活かすことも、工夫次第で様々な可能性があるものと思われる。一層の充実によって、参加者の生きがいづくり、地域の活性化などに機能することが期待される。

前田 烈（大智学園高等学校顧問）

【かけがえのない命を大切にしたい豊かな心づくりの推進】

・ 施策の実施状況

事業はどの施策も大変充実している。記されていないが、 中学校の立志式、 児童生徒の自主学習支援事業 など、他地域にはほとんど見られないものであり、また、 海・山の自然体験活動 も充実している。特に、芸術に触れる体験事業 の充実は他の地域の追随を許さない優れたものであるように思う。

- ・ 人権教育研修会 参加率の高まりは評価できる。マンネリ化、形骸化しないように、研修内容・方法については絶えず心を配りたい。

特に、 いじめ問題 については、 台東スタンダード があれば、（無ければ作成して）これを人権教育の中核と位置付けて、園・学校、家庭や地域社会で絶え間なく意識して教育に努めることが大切であろう。区教委のリーダーシップを期待している。

- ・ 道徳教育の教科化に伴って、本区発行の副読本 ころざし高く は、今後発行、検定・採用されるであろう道徳科の教科書と併用して活用していくべきで、価値が薄れるものではない。

・ 下町台東の美しい心づくり の取り組みについて

現在、 ソーシャル・キャピタル（社会資本...地域の文化や環境...）という言葉がよく聞かれるようになったが、子供たちの知育・徳育・体育を高めるうえで重要であるという。下町台東の美しい心づくり の考えと活動は、その最たるものに思われる。マンネリ化、沈滞化しないように様々な工夫をして、盛り上げてほしい。

- ・ 命 を、動植物等も含めた 自然の生命 と考えて、地域住民の協力等も得ながら園・学校の自然の充実も図りながら、子供たちへの 自然に対する知識や理解 に努めたい。農業体験実施校の成果を検証して、他の園・学校の学校園づくりなどにどの程度波及しているのかの検証も必要ではないのか。

【伝統と共に生きる豊かな感性の醸成】

- ・台東区は、地域の環境や人材に恵まれて、伝統や芸術、文化に関する教育事業は先進的に取り組まれていて、他地域より充実していると思う。
小学校全校参加の 能・狂言鑑賞教室 や 台東区歴史・文化テキスト の配布、 台東区子ども歴史・文化検定 、 ときどき歴史・文化探検隊 、 台東区民話と伝承遊び の園巡回事業など、本区特有の事業と思われる。
- ・このアドバンテージを認識して、園や学校での教育で一層活用してほしい。そのために、行政機関が設置・運営する事業を知り、理解することが肝要だと思われる。教育委員会が運営する事業の一員に加わっている教職員は、当然理解は深いが、大多数の教職員は、必ずしもそうでもない。
- ・一方、巷間にも声があるように、今日、園・学校における業務は多事多端でもあるし、児童・生徒も多忙である。この項目と直接かかわらないが、事業の計画、運営面では区教委、園学校間で十分に意見交換、連絡調整して、精選・重点化に努めて、円滑な活動を推進してほしい。

【生涯学習推進システムを確立する】

- ・社会教育館等の指定管理者の事業運営は誠実に行われているのが感じとれる。
総合評価 の欄に記されているように、事業の質も高まっているように思う。
- ・区民対象の学習事業では、参加者個々人の一層主体的な学習を促せるように、講師の講演に加味して、参加者同士の協同学習の形態なども工夫してはどうか。
- ・区民のニーズに一層応えるために、生涯学習関連組織のネットワーク化と、区民の相談システムの 学習情報コーナーの充実 に課題意識を持っていることを評価し、期待したい。
- ・事業が多岐にわたる現状の行政機関においては、円滑で効率的な運営や、事業の重複を避けて区民にもわかり易くするために、事業を絞って焦点化することも必要と思われる。区民の学習相談の第一窓口になったり、区民学習に関係する関連機関の連絡調整をする 中核的（センター）機関 を設けたらどうか。

【地域力を高める】

- ・地域のネットワークの堅固さや、連帯感、相互信頼感の高さは、教育効果
人の健康や幸福感の向上 治安や民主主義機能の向上 等に結びつくとい
いう。アメリカの政治学者の実証に基づいた学説であるが、この説を引くま
でもなく、社会にとって 地域力を高める ことは、極めて重要であり、地
域行政の根幹と言えよう。
- ・その点から【課題】(1) 地域資源の見直し で、人材資源と、組織及びそ
のネットワークに着目しているのは当を得ていて、期待できる。
- ・生涯学習ラーニングスクエア について
「16歳以上対象」と「55歳以上対象」の分野には特に事業の充実を期待し
たい。
 - ・イギリスでは、一時期、16歳 18歳の年齢層で無就労・無就学が同年齢
層の約9%（16万人）になり、危機感から学制を改革するほどの時代があ
った。次代を担う若者への期待はどこでも同様。本調査 生涯学習ラーニ
ングスクエア でも16歳以上の講座は参加率が低い。工夫・改善を期待
したい。
 - ・「55歳以上対象」の講座も、高齢者の生活を支援する学習の観点と、経験
を生かして、社会参加・貢献の 生きがいづくり の学習の観点があっ
て、しかも対象者には個人差がある。講座の設置や運営は容易ではないと
思われるが、喫緊の課題でもある。高齢社会にあっては、地域活性化の最
も大きな課題とも思える。
生涯学習推進システム の項と重なるが、普及活動と合わせた 区民の相
談窓口 の機能の充実が大切だと感ずる。

有村 久春（東京聖栄大学教授）

【かけがえのない命を大切にしたい豊かな心づくりの推進】

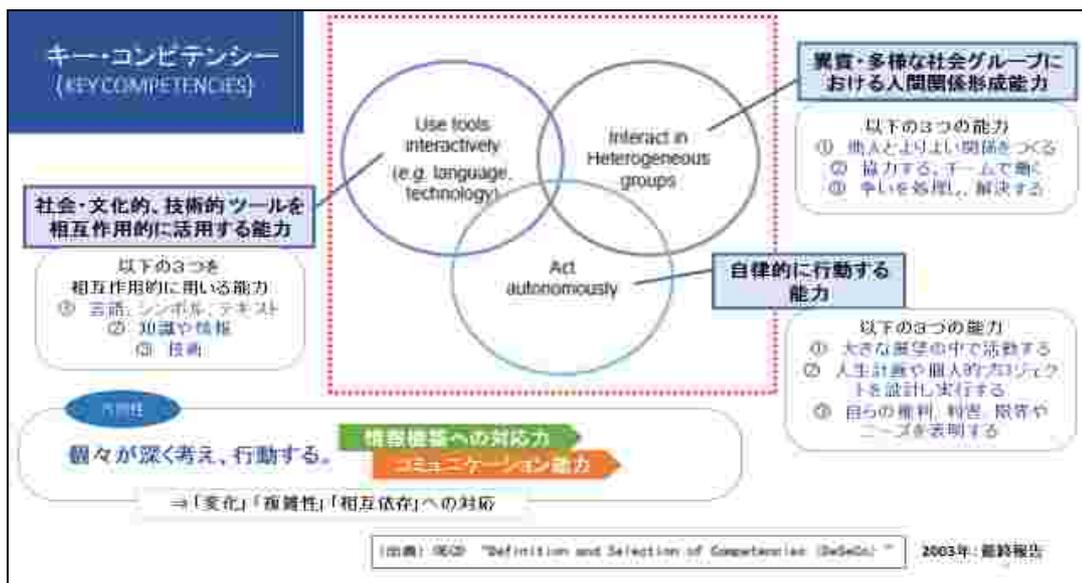
- 本施策は、台東区が目指す教育の基本理念に直結する課題であり、育てたい人間像の真髄を成すものである。とくに、「心豊かに充実した人生を送るための基礎」に資する。いうまでもないが、子供・区民が＜自らの命を守り、自他を愛する生き方を創る＞ベースになっている。この精神があってこそ、伝統ある台東区の存在があると思う。この論理に立った施策を今後も展開したい。
- 施策事業の推移では、この3年間、順調にしかも安定した展開がみられる。その意味では、行政施策の地道な努力が十分に評価できる。各学校や区民へのアプローチも適時適切であると言えよう。
- 施策の方向に挙げた5つの具体のうち、人権と生命尊重の教育がその基底をなす。この観点から見ると、貧困や虐待、いじめ・暴力、学力格差、ネット情報の危機など、子供を取り巻く生活環境は必ずしも安心できない事態にある。ここに、子供自身をはじめ保護者や教師また関係者の苦悩がある。
（例：子供の貧困率 16.3%厚労省（2014）、虐待件数 10万3,260件厚労省（2015）、いじめ：小151,190件、中59,422件文科省（2016）いずれも増加傾向）
- ややネガティブな発想をしたが、これらの現実を直視しない限り、子供の人権や生命の本質は見えてこないのではないか（上記の数値は国データであるが、台東区の現状もほぼ同様の実態にあるのでは？）。各施策の執行では、この3年間、ほぼ同様の事業実績である（マンネリ化や現状認識の甘さが危惧される？）。「継続」と「改善」の双方の利点を生かす検討を工夫したい。
- 例えば、人権尊重教育推進校7校の成果をどのように検討し自校の教育改善に活かすのか、いじめ問題の取り組みを見直しているか（いじめ防止対策推進法では施行後三年を目途に検討することとしている（附則第2条））、常態化しているSC事業や道徳授業地区公開講座の実施、男女共同参画の推進や下町台東の美しい心づくりなどの事業をどのような観点で再検討するのかなど。
- あえて言うなら、「継続」と「改善」を天秤にかけるところから、新たな思考と行動が生まれるように思う（メタ思考の重要性）。対話的な議論とともにチャレンジ精神のある事業の展開を期待したい。

【伝統と共に生きる豊かな感性の醸成】

- ・本施策は、台東区の特徴・よさが最も発揮できる分野であると思う。とりわけ、「上野の山文化ゾーン」の存在は、国際的にも国内的にも揺るがない地位と内容を有している。区の文化的優位性を示している。台東区の子供たちや区民が、誰よりも優先してこの〈地元の利〉を享受することが大切ではないか。
- ・一般に、いわゆる観光地・名所にあっては、〈お客様向けであり地元には縁遠い〉との思考があるのではないか。まずは、足元を大切にしたい学びと生活の在り方を考えたい。この理解をベースにした担当課の事業推進を期待する。
その基本として、施策の方向の(1)にも記されているが、「上野の山文化ゾーン」の空間と所産を十分に活用することである。この具体化が、(2)(3)の歴史・文化の理解と郷土への愛着・誇りを形成するものである。
- ・例えば「連合作品展」は、都美術館を使用しているとの実績がある。ここでの実施は、子供たちも胸躍る誇らしさを味わうであろう。これに倣い、「演劇鑑賞教室」や「歴史・文化検定」などの事業も「上野の山文化ゾーン」を会場としてはどうか？ また、配布された社会科副読本(小3)を持参して文化ゾーンで自由に過ごす体験をする(1日の学校行事、総合学習など)、民話と伝承遊びの普及活動を上野公園の広場で行うなど。
- ・そして、展開する時間帯や曜日等を工夫することによって、多くの観光客と一緒にこれらのイベントを楽しむことができるであろう。今日のネット情報を活用して、この実際を世界にも発信していくことも可能である。いまや台東区よさと伝統が、国際ブランド化している時代にふさわしい事業展開ではないだろうか。世界遺産の価値なども、これらの事業推進に大いに活用したい。
- ・このような教育展開のあり様が、学校教育の視点で考えると、〈社会に開かれた教育課程の推進〉そのものである。「学びのキャンパス台東」の具体化を上野の山にて実現したい。国際社会に生きる台東区の子供たちを育てたい。この理念を実現する行政施策でありたい。必要な予算的・人的対応や各学校を含めた全庁をあげた動きも求められるところである。

【生涯学習推進システムを確立する】

- 本施策の使命は、課題にも記されるように、生涯学習の推進はフィールド（センター等の施設・設備）の活用から、子供たちや区民が自己学習の基盤にしているネット社会の情報ツール活用への転換を図ることである。そのシステムを確立する主体は、誰なのか？ 言うまでもなく、子供たち個々であり区民一人一人である。
- その基本として、OECDが提案してきた3つのキー・コンピテンシー（主要能力）の理解が参考になる（下図：有村作成）。

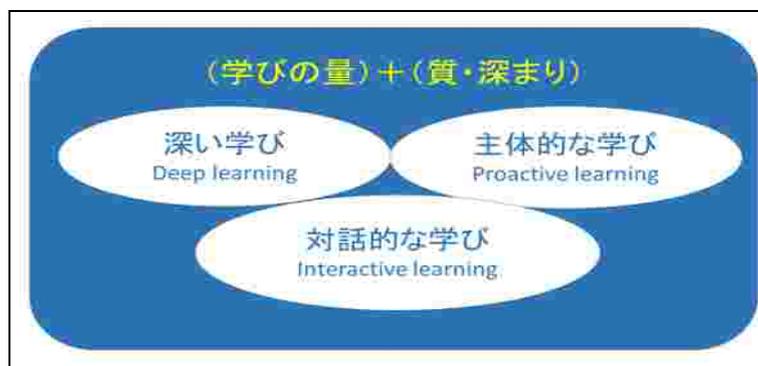


この3つは、国の教育基本計画や中教審の議論等においても、次代を生きる能力形成として欠かせないとしている。すなわち、道具・技術を使いこなし、多様な人々と交流し、自律的判断と行動をする人づくりである。

- 本施策事業に照らせば、生涯学習センターや図書館等を区民が自らの学習課題の追究の場とする。そのプロセスにあって、多様な人々（内外を含めた）との豊かな関係をつくり、自己を確立・実現していくことであろう。
- この視点から、本事業の具体策を検討していくと、実績にあるここ3年間の数値（あまり変化がみられない）や、「実施」とするルーチン的な推進などにも新たな多様性と変化を見出せるものと思う。
- 例えば、子供たちや区民個々が日常的に活用しているスマホや情報機器等を生涯学習システムに組み込む（連動する）ことなどを考えたい。このシステム構築において、個々のアイデンティティの確立と多様性のある人間関係づくりも促進されよう。ここに、AI（人工知能）を活用する方向性も視野に入れたい。本施策事業の多くは、AIがその課題を実現するのではないだろうか。

【地域力を高める】

- 本施策の課題である「地域資源の見直し」と「学習グループの支援」のあり様が、これからの生涯学習の方向性を左右するように思う。とてもいい視点を挙げていると思う。すなわち、ラーニングスクエアの活性化を目指すことである。本事業でもこのことを重視して、学習意欲の促進や情報提供の活用などをより可能にする環境づくりに努力している（各種講座等の推進と実施）。
- 実施状況の数値等からも理解できるように、受講者数や区民ニーズの取り込みには課題があるように思う（申し込み倍率が低い事業もみられる）。言うまでもないが、行政当局が「してあげる」「仕組みを作る」などの発想を払拭する必要があるだろう。子供たちや区民にとっても、その匂いがするとそれに甘えたり、それをより以上に期待したりすることがあろう。
- それゆえ、地域力を高める原動力として、子供たちや区民自身が自ら<つくる・つながる・学ぶ>を基本コンセプトにする。そこには、人々の<出会いとコラボ>のある「自分たちのスクエアづくり」が表出する。
例えば、リーダーづくりを工夫したい。地域力の原動力として期待したい人材をスクエアごとに委嘱して、その専門的なラーニングをコーディネートする役割を要請してはどうか。そのリーダーを中心にした「学び教え合い」、「知的好奇心の刺激交流」を体験できるように支援したい。
- なによりも、学びの主体を区民サイドにすることである。可能な限り、行政的な関与を少なくすることが本施策の成功につながると思う。学ぶことは、<学習者自身の自律的な営みである>からである。
- 個々の「主体的な学び」は、他との「対話的な学び」によって、より「深い学び」に質的に転換していくものである。この教育の原理であるアクティブラーニングの発想が、生涯学習の具体化にも欠かせない（下図：有村作成）。



6 教育委員会の活動状況（平成27年度）

平成27年度の教育委員会の活動については、教育委員会定例会、総合教育会議、学校・園への行事等の出席、区内各種団体の行事等への出席及び視察・研修などの活動を行いました。

1 教育委員会委員

（平成28年3月31日現在）

役 職	氏 名	委員任期
委 員 長	垣 内 恵美子	平成25年12月18日から 平成29年12月17日まで
委員長職務代理者	末 廣 照 純	平成26年12月25日から 平成30年12月24日まで
委 員	樋 口 清 秀	平成27年10月 8日から 平成31年10月 7日まで
委 員	高 森 大 乗	平成24年10月 8日から 平成28年10月 7日まで
教 育 長	和 田 人 志	平成24年10月 8日から 平成28年10月 7日まで

2 教育委員会の会議

教育委員会の会議は、毎月2回開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、教育に関する様々な議案について検討し議決を行うとともに、重要事項について事務局より協議及び報告を受けています。

（1）会議の回数

- ・ 定例会 24回
- ・ 臨時会 0回

（2）議案審議等の付議状況

- ・ 議案審議 51件
- ・ 協議事項 112件
- ・ 報告事項 113件

(3) 議案審議の状況等

- ・ 議会提出議案に対する意見 22件
- ・ 教育委員会規則及び規程の制定及び改廃 19件
- ・ 職員の人事に関すること 1件
- ・ 教科書の採択に関すること 2件
- ・ その他 7件

3 総合教育会議

平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、自治体の長と教育委員会が円滑に意思の疎通を図り、連携して教育行政を推進するために、総合教育会議の設置が義務づけられています。

(1) 会議の回数

3回

(2) 審議、報告等の内容

教育大綱の策定、教育に関する計画の策定等

4 その他の教育委員会委員の主な活動

(1) 区立小・中学校・幼稚園、こども園、保育園関係

卒業式、式典、運動会、陸上大会、各種学校行事等への出席

(2) 区内各種団体等の行事関係

各種団体等が開催する大会、式典等への出席

(3) 視察・研修等

平成27年度教育施策連絡協議会（東京都教育庁主催）

〔内 容〕

- ・ 平成27年度主要施策の概要について
- ・ 基調講演及びパネルディスカッション

出前教育委員会

〔内 容〕

- ・ 教育委員が学校・園に出向き、施設状況や運営状況を直接、把握するとともに教育委員会の施策・考え方・取り組みについて教職員と意見交換を実施
- ・ 平成27年度は、浅草小学校、浅草中学校、たいとうこども園、東上野保育園にて実施

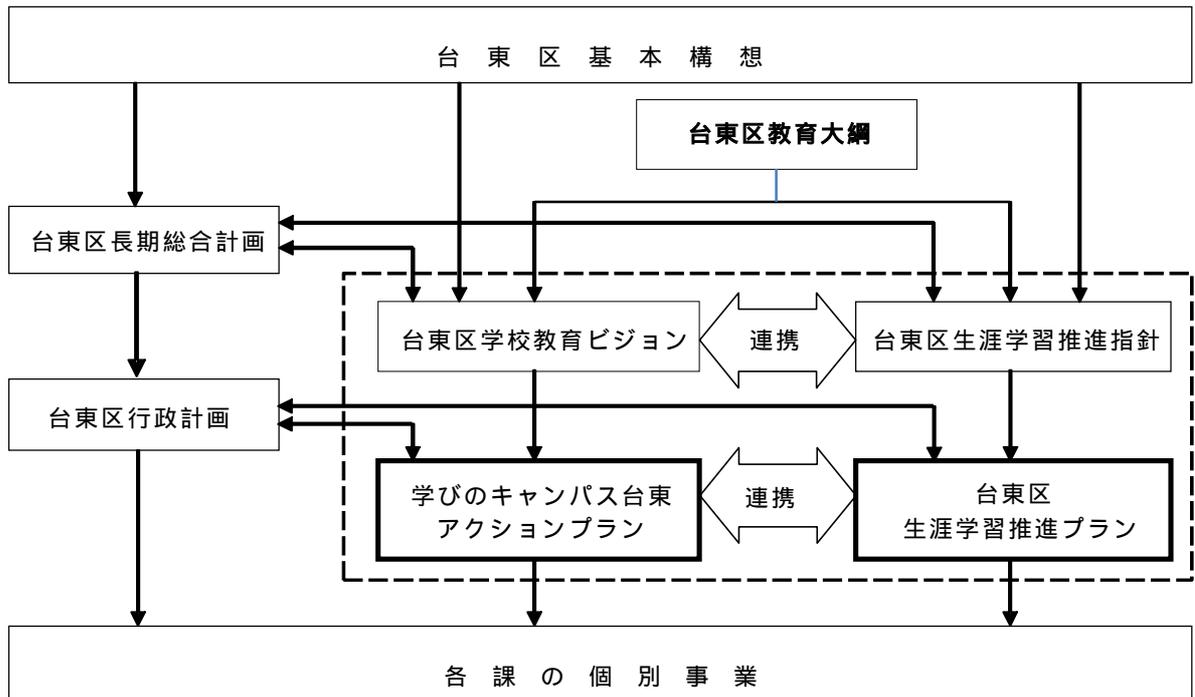
第2ブロック教育委員会協議会（台東区、北区、荒川区、文京区）

〔内 容〕

- ・ 各区教育委員会の重点事業等意見交換（文京区にて開催）

7 参考資料

- 「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」の位置づけ



〔 〕 は「教育振興のための施策に関する基本的な計画」

「台東区学校教育ビジョン」、「台東区生涯学習推進指針」、「学びのキャンパス台東アクションプラン」、「台東区生涯学習推進プラン」は、教育基本法第 17 条第 2 項に基づいて策定する、台東区の「教育振興のための施策に関する基本的な計画」として位置づけられています。

台東区教育大綱

台東区は、上野、浅草、谷中、隅田川など歴史と伝統に恵まれた地域を擁し、情緒ある個性豊かな文化を育んできたまちです。日々のにぎわいある暮らしの中で、子供からお年寄りまで様々な世代が下町ならではの心意気と人情で支え合っています。

今、本区では、こうしたかけがえのない財産を活かし、「教育はひとづくり」の観点から、台東区のまち全体を人が成長するための環境「学びのキャンパス」としてとらえ、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、将来の台東区を担うひとづくりを推進しています。

今後も、この施策をさらに充実させ、地域に支えられたひとづくりが、未来の台東区を築く人材を育むとともに、さらに住みよい躍進するまちづくりへと結びつくよう、次の項目に取り組みます。

温故創新とこころざし

台東区の歴史、文化を尊重し、伝統・技能を継承、発展させるとともに、こころざしを立て、新たな地域や社会を創造するひとづくりを進めます。

自己実現と支え合い

区民が生涯を通じて自己実現に努め、自他を尊重し共に支え合い、変化が大きい社会を生き抜く力を培えるよう支援します。

教育に対する信頼と尊敬

教育に携わる教師・保育士の資質向上をたゆまず図り、子供たちや保護者、地域から、より信頼され尊敬される人材を育成します。

心の豊かさと学びの環境づくり

区民一人ひとりが心豊かに生涯を送れるよう、いつでも、どこでも、誰もが、ライフステージに応じて学べる環境を整備します。

絆と地域力

家庭や地域社会の絆を大切にし、活力あるコミュニティの形成に努め、地域力を高めます。

平成27年5月27日

台東区長 服部 征夫

【教育目標】

台東区教育委員会は、子どもたちが心身ともに健康で、人権尊重の精神を基調としつつ人間性豊かに21世紀を創造する人材に成長することを願い、

**互いの人格を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ人
個性や豊かな創造力、健やかな体をもち、自ら学び、考え、行動する人
台東区の歴史・文化に誇りをもち、地域社会を愛し、発展に貢献できる人**

の育成に向けた教育を充実する。

また、だれもが生涯にわたり自己実現に生きがいを見出し、学びを継続し、心豊かに人生を送ることのできる生涯学習社会の実現を図る。

そして、台東区基本構想に掲げる「にぎわい いきいき したまち 台東」の実現を目指し、区民憲章を実践し、にぎわいと活力のある地域社会の形成と個性豊かな下町文化の継承と発展に努める。

平成28年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
報告書

編集・発行 台東区教育委員会
〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
電話 03-5246-1402 / FAX 03-5246-1409
メールアドレス : ed-shomu.1qt@city.taito.tokyo.jp